

高齢者による使いやすさ検証センターの開発

解決したい課題・研究開発目標



【現状と課題】

高齢者は「新しいモノ・システム（特に情報機器系関連）」について、使いにくい、使いたくないと感じることが多い

→ 地域在住高齢者のQOL, 低コストでの支援システム構築にとって問題

【目指す社会像・研究開発目標】

『「みんなの使いやすさ」を考えるプラットフォームの創出』

- ・ 「高齢者にとっての使いやすさ」を通して、「みんなの使いやすさ」の実現を目指す
- ・ 「使いやすさ」実現に向けて高齢者が社会貢献できる

⇒ 「**使いやすさ検証実践センター（通称：みんなの使いやすさラボ）**」を設立

- (1) 高齢者の/みんなの「使いやすさ」研究
- (2) 一般企業等メーカー＆サービス提供者を対象とした「使いやすさ」検証活動
- (3) 高齢者、メーカー＆サービス提供者、研究者の三者が交流するコミュニティ活動



● みんなラボの組織図



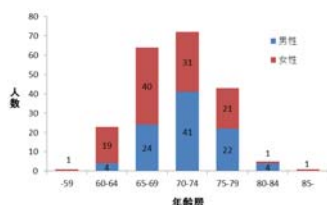
対象コミュニティ・関与者



【対象コミュニティ】 茨城県つくば市を中心とした県南地区在住の高齢者

【主要な関与者】 地域在住の高齢者，一般企業等メーカー＆サービス提供者
筑波大学他 研究者

- 現在（2015年2月11日）約210名の高齢者が登録会員となり所属している。
- 主要な研究機関として、筑波大学、静岡大学、一般社団法人 人間生活工学研究センター、(株) HALデザイン研究所などが参画している。
- 一般企業メーカー、サービス提供者としては、食品・清涼飲料水、情報・通信・オフィス機器、制御・計測機器、在宅医療機器、自動車・自動車関連機器などの分野と関わりを持つ



高齢者会員の年齢層ごとの人数分布

これまでの企業との研究

- ・ オフィス機器 3件
- ・ 自動車・自動車関連機器 3件
- ・ 医療機器 1件
- ・ 情報通信機器 2件
- ・ 食品関係 3件

プロジェクトを通じた主な成果と今後の展望

お問い合わせ先
みんなの使いやすさラボ
電話 029-879-7351
E-mail: mado@tsukaiyasusa.jp

【開発した社会技術】

活動拠点の設置

・みんなラボの設立・運営

みんなラボの設立

ラボ: 茨城県つくば市吾妻 (駅より徒歩8分)
設備: 様々な機器のテストに対応可能

- ① ユーザビリティテストルーム・・・ HDV 4画面合成 設備
- ② モニタールーム兼テストルーム・・・テストルームの様子を観察可能

みんなラボ事務所

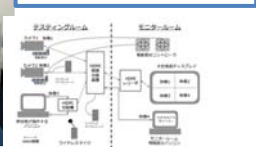


アクセス
マップ



室内の様子

テストルーム
モニタールーム



機材の紹介

高齢者・企業・研究者の共同研究・検証活動の実現

・みんなラボコンソーシアム設置と使いやすさ検証活動の実施方法

- ① メーカー、サービス提供者からの委託事業・共同研究・学術指導として、具体的なモノ、サービスを対象とした、使いやすさ検証のための調査・実験活動を実施。
- ② みんなラボデータベース、みんなラボ施設、みんなラボ研究グループメンバーなどのみんなラボ資源を活用して、効率的かつ信頼性が高く、質の高い使いやすさの検証活動を行っている。

例 食品包装・
開けやすさ検証

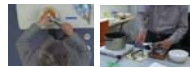
みんなラボ
カフェ



訪問
調査



検証実験



高齢者を中心とした、三者のコミュニティの形成

・みんなラボコミュニティ活動

みんなラボカフェ

- ① 高齢者会員とメーカー・サービス提供者が相互に語り合う場を月一回ワークショップとして開催
- ② 全会員が、自由に参加できる
- ③ 様々なモノの使い方の実演が行われ、使いやすさについて意見交換。さらにその機器を使いやすくするにはどうすればよいかを討論



みんなラボカフェ
の様子

「筑波大学付属病院の使いやすさを考える」プロジェクト

病院の立場とユーザー側の両者の立場に立って病院を調査し、病院の使いやすさについての提言



調査の様子



報告会の様子

みんなラボ四季報編集委員会

みんなラボの活動を世間に広める自主的な活動



回	開催日	議題	会社・団体
1	2012.2.13	緊急通報システムってご存知ですか?	アズビルあんしんケアサポートシステム(株)
2	2012.4.27	継続して快適に測定できる血圧計	テルモ(株)ユーザビリティ評価チーム
27	2014/12/12	新しいやわらか食「あいーと」を体験する	イーエヌ大塚製薬株式会社
28	2015/1/23	私でも曲が弾ける! フレットバイオリンの魅力	エルデ楽器

みんなラボカフェ
全28回実施 (2015/2/11時点)

土曜会議・土曜サロン・サークル

- ① 多様な「モノの使いやすさ」の問題について、少し大きなテーマを設定
- ② 井戸端会議のような話し合いの中から、問題解決を目指す
- ③ 高齢者会員が主体となって議論し、学生がその活動をサポートする

